

(1) 施策の外部評価の結果 【第3回】

基本政策	都市の活力を生み出す魅力あるまちづくり
施策展開の方向	都市の骨格を支えるまちをつくる
施策	24：交流がひろがる拠点の形成
目標とする状態	●伊勢原駅周辺の市街地整備が進み、多くの人が行き交い、まちが賑わっています。

施策の達成状況 ：A～D	第2分科会の 評価結果	施策の達成状況に関する各委員の判断理由・意見				
	B 計画どおりの成果 が得られている	<ul style="list-style-type: none"> 伊勢原駅北口の再開発は、市の重要な施策であることから、目に見える形での進展が求められるが、他の施策に比べて、取組が若干遅れている。 施策を構成する事業は、概ね計画通りに進捗していることを確認したが、実施水準が近隣自治体に比べて低く、さらなる推進に期待したい。 指標の達成状況から見れば、Bと判断せざるを得ない。今後は、商業施設の集積状況なども指標に入れるべきではないか。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	B 計画どおりの成果 が得られている	B 計画どおりの成果 が得られている	C 計画より遅れている	B 計画どおりの成果 が得られている	B 計画どおりの成果 が得られている	
計画事業の構成 に関する評価 ：a～c	第2分科会の 評価結果	事務事業の構成に関する委員の判断理由・意見				
	b 概ね妥当である	<ul style="list-style-type: none"> 権利者の理解、賛同、合意状況（同意、不明、反対）を件数（または人数）を指標として表示しては良いのではないか。 商業施設の集積を図るための事業を入れる。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	b 概ね妥当である	a 適切な構成である	b 概ね妥当である	b 概ね妥当である	c 構成に問題がある	
市民意識の反映 ：A～C	第2分科会の 評価結果	市民意識の反映に関する委員の判断理由・意見				
	C 反映できていない	<ul style="list-style-type: none"> 満足度の低さは、現状の駅北口周辺整備計画への不満だと思う。出来るだけ早期に具体的な整備計画の提示を求めているものと思う。 市民の期待が大きいだけに遅々とした動きにじれったさを感じている。もっと公聴会や説明会、イベントを通して市は重要性を説明し、合意を得る努力をしてほしい。 伊勢原駅周辺だけでなく、伊勢原市全体のイメージに直結しやすい施策であり、市民意識として重要度が比較的高い一方で満足度の低さが顕著であることは当然と思われる。本施策は課題としては認識されているものの、施策の実施水準は近隣自治体に比べて低く、市民意識を反映できていないと判断した。 市民の多くは、市の玄関口にふさわしい整然とした活気に満ちた伊勢原北口周辺の在り方を望んでいる。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	C 反映できていない	C 反映できていない	C 反映できていない	C 反映できていない	C 反映できていない	
課題の捉え方 ：A～C	第2分科会の 評価結果	課題の捉え方に関する委員の判断理由・意見				
	B 課題の捉え方に一部 不足が見られる	<ul style="list-style-type: none"> 理想的には周辺市民の移動と流動性が高い観光客の移動においてある程度シミュレーションできるようになると良い。 駅北口周辺整備は喫緊の課題であり、周辺関係者との合意形成が急務と思われる。 当該施策の推進には、出来るだけ多くの市民の共感と理解／支援を得ることが最も有効。 周辺の土地の権利者の理解を得るためのインセンティブになるような施策を提示していくことも必要ではないか。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	B 課題の捉え方に一部 不足が見られる	A 課題の捉え方が 的確である	B 課題の捉え方に一部 不足が見られる	A 課題の捉え方が 的確である	B 課題の捉え方に一部 不足が見られる	
施策の方向性 ：A～D	第2分科会の 評価結果	施策の方向性に関する委員の判断理由・意見				
	A 拡大して実施	<ul style="list-style-type: none"> 観光の玄関口としての地元の意気込みと地域振興への起爆剤にもなると思う。 伊勢原市の独自性が一目で分かるような整備を進めてほしい。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	B 継続実施	A 拡大して実施	A 拡大して実施	A 拡大して実施	A 拡大して実施	

(1) 施策の外部評価の結果 【第3回】

基本政策	自然と調和した住みよいまちづくり
施策展開の方向	愛着のある美しいまちをつくる
施策	25：地域の個性あふれるまちづくりの推進
目標とする状態	●市民が主体となって、地域の特性や資源を活かしたまちづくりに取り組んでいます。

施策の達成状況 ：A～D	第2分科会の 評価結果	施策の達成状況に関する各委員の判断理由・意見				
	C 計画より遅れている	<ul style="list-style-type: none"> ・施策の幅が広いので実績の評価が難しい分野である。 ・市民が主体となったまちづくりの取組団体数を指標としているが、なぜ増えないのか。分析することが必要である。 ・市民が主体となって取り組む『まちづくり』の指し示すものについて、もう少し具体的な定義と丁寧な表現が必要と考える。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	C 計画より遅れている	C 計画より遅れている	C 計画より遅れている	D 成果が見られない	D 成果が見られない	
計画事業の構成 に関する評価 ：a～c	第2分科会の 評価結果	事務事業の構成に関する委員の判断理由・意見				
	C 構成に問題がある	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の参加団体への情報交換も大事な作業と思う。 ・『目標とする状態』については、もう少し具体的な定義が必要であると思われる。目標とする状態が明確につかめないため、事業構成については妥当であるとは判断できない。 ・事業内容が具体的でないので、理解しづらい。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	b 概ね妥当である	c 構成に問題がある	b 概ね妥当である	c 構成に問題がある	c 構成に問題がある	
市民意識の反映 ：A～C	第2分科会の 評価結果	市民意識の反映に関する委員の判断理由・意見				
	C 反映できていない	<ul style="list-style-type: none"> ・地域により住民が求めているものが違うため、意見の集約や整理選択をして活動の見える化等で市民活動への理解を広げるのも、重要度や満足度を上げる効果が出るのではないかと。 ・近隣市の状況など、事例収集をしてはどうか。目標とする好事例都市を作ると良いのではないかと。 ・市民自由意見の多くは、『市民が主体となったまちづくり』ではなく、行政への要望となっている。この認識の相違を埋める作業が必要であると思われる。市民意見から推察すると、伊勢原市の第5次総合計画基本構想にある土地利用構想について、より具体例をもって提示されることを求めているのではないかと。 ・具体的な事業を提示すればわかりやすくなる。地域の特性や景観を生かしたまちづくりを目指すのは、絶対に必要なことである。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	C 反映できていない	C 反映できていない	C 反映できていない	C 反映できていない	C 反映できていない	
課題の捉え方 ：A～C	第2分科会の 評価結果	課題の捉え方に関する委員の判断理由・意見				
	C 課題認識できていない	<ul style="list-style-type: none"> ・景観に関しては、個人差があり評価が難しい。市民と景観作成者との密なコミュニケーションが必要である。「まちづくり」に関しても、地域とのコミュニケーションが必要である。 ・地域活動の活発な地域等をモデル地域に指定し、活動の様子などを幅広く知ってもらう必要がある。 ・課題認識はされているが、目標の選定や評価指標への反映には改善の余地があると思われる。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	C 課題認識できていない	C 課題認識できていない	C 課題認識できていない	B 課題の捉え方に一部不足が見られる	C 課題認識できていない	
施策の方向性 ：A～D	第2分科会の 評価結果	施策の方向性に関する委員の判断理由・意見				
	B 継続実施	<ul style="list-style-type: none"> ・市民にとって極めて重要であり、市民へのアイデア公募など活動の視点を広げる必要がある。 ・施策は正しいと思うが、事業内容や手段方法次第で成果の結果も異なると思う。 ・『地域特性を活かしたまちづくり』のあるべき姿がどういった状態を指すのかについて、伊勢原市第5次総合計画基本構想の土地利用構想を具体化するなど、市民がイメージしやすくする工夫が必要ではないかと。 ・地域の特性や景観を生かしたまちづくりを推進していくのは、将来の伊勢原市にとって絶対に必要である。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	A 拡大して実施	B 継続実施	B 継続実施	B 継続実施	B 継続実施	

(1) 施策の外部評価の結果 【第3回】

基本政策	自然と調和した住みよいまちづくり
施策展開の方向	愛着のある美しいまちをつくる
施策	26：生活環境美化の推進
目標とする状態	●自分の住むまちをきれいにしようとする意識が高まり、きれいで美しいまちづくりに取り組む輪が広がっています。

施策の達成状況 ：A～D	第2分科会の 評価結果	施策の達成状況に関する各委員の判断理由・意見				
	B 計画どおりの 成果が得られて いる	<ul style="list-style-type: none"> ・「美化活動が行われている公園の数」が既に目標値を上回っている。市民活動が活発であると思う。 ・ポイ捨ての防止や公園美化意識向上は、順調に成果が出ていると感じる。今後は道路・公園以外の河川沿い、空き地、雑木林の美化にも注力いただきたい。 ・施策を構成する主な事業について、計画通りに進捗され、成果が得られていることを確認した。公共施設は、公園に的を絞っているが、評価指標としてわかりやすく、着実に進捗している。 ・以前と比べて街中のゴミは減少しているし、公共の場所の景観も良くなっていると感じる。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	A 計画以上の成果が あがっている	B 計画どおりの成果が 得られている	B 計画どおりの成果が 得られている	B 計画どおりの成果が 得られている	B 計画どおりの成果が 得られている	
計画事業の構成 に関する評価 ：a～c	第2分科会の 評価結果	事務事業の構成に関する委員の判断理由・意見				
	b 概ね妥当である	<ul style="list-style-type: none"> ・地域格差があるが、概ね計画に沿っていると考ええる。 ・美化の推進は回数も重要だが、賛同・参加する人数も重要である。 ・この施策は、市民意識の向上が大切な要素となっているので、計画事業の構成は概ね妥当と考ええる。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	b 概ね妥当である	b 概ね妥当である	b 概ね妥当である	b 概ね妥当である	b 概ね妥当である	
市民意識の反映 ：A～C	第2分科会の 評価結果	市民意識の反映に関する委員の判断理由・意見				
	B 概ね反映されて いる	<ul style="list-style-type: none"> ・市民にとって、身近な問題であるため、満足度、重要度を上げる必要がある。 ・身近なテーマなので市民も取り組みやすい。 ・市民等が無理なく環境美化活動に参加できるように一層の工夫が必要。 ・この施策については、子どもから大人まで誰もが関心を持っていると思う。その中で、市民意識調査の自由意見の数と内容からある程度、市民はこの施策を評価しているものと思われる。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	B 概ね反映されている	B 概ね反映されている	B 概ね反映されている	B 概ね反映されている	A 反映されている	
課題の捉え方 ：A～C	第2分科会の 評価結果	課題の捉え方に関する委員の判断理由・意見				
	A 課題の捉え方が 的確である	<ul style="list-style-type: none"> ・環境改善に関しては、短期的成果が難しいため、中長期的対応が必要である。 ・観光地のごみ対策など、意識をさらに広める取組も大事である。 ・美化活動が活発となる工夫をさらにお願いしたい。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	A 課題の捉え方が 的確である	B 課題の捉え方に一部不 足が見られる	B 課題の捉え方に一部不 足が見られる	A 課題の捉え方が 的確である	A 課題の捉え方が 的確である	
施策の方向性 ：A～D	第2分科会の 評価結果	施策の方向性に関する委員の判断理由・意見				
	B 継続実施	<ul style="list-style-type: none"> ・当該施策は、地道な対応が必要である。 ・地域の特性を活かすための啓蒙活動も大事である。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	B 継続実施	B 継続実施	B 継続実施	B 継続実施	A 拡大して実施	

(1) 施策の外部評価の結果 【第3回】

基本政策	自然と調和した住みよいまちづくり
施策展開の方向	みんなの努力で環境にやさしいまちをつくる
施策	27：自然共生社会の構築
目標とする状態	●市民の自然環境を大切にしている意識が高まり、数々の動植物とともにくらすことができ、自然からの恵みを受けています。

施策の達成状況 ：A～D	第2分科会の 評価結果	施策の達成状況に関する各委員の判断理由・意見				
	A 計画以上の成果 が あがっている	<ul style="list-style-type: none"> 水質汚濁（河川）に関し、BOD等環境測定結果から高く評価できる。 学習実施回数、アユが住める河川数の増加は成果ありと思う。 施策を構成する主な事業について、計画以上の成果が得られていると考える。 指標の達成状況及び市民意識調査から、市民の自然環境を大切にしている意識が高まっている。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	A	A	B	A	B	
	計画以上の成果が あがっている	計画以上の成果が あがっている	計画どおりの成果 が得られている	計画以上の成果が あがっている	計画どおりの成果 が得られている	
計画事業の構成 に関する評価 ：a～c	第2分科会の 評価結果	事務事業の構成に関する委員の判断理由・意見				
	b 概ね妥当である	<ul style="list-style-type: none"> 環境教育や、水質に関し、取組が充実しているが、大気、土壌に関した施策がない。 事業の成果が大いに出ていると思う。 生息・生態系調査を実施してほしい。 この施策の目標とする状態を実現するには、これらの事業だけでは物足りない。希少動植物の保護対策事業なども入れたら良いと思う。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	c	a	b	a	c	
	構成に問題がある	適切な構成である	概ね妥当である	適切な構成である	構成に問題がある	
市民意識の反映 ：A～C	第2分科会の 評価結果	市民意識の反映に関する委員の判断理由・意見				
	B 概ね反映されて いる	<ul style="list-style-type: none"> 自然科学的要素が多く理解されにくい、リスク回避（安全性）を向上する必要がある。 日本遺産の認定もあり、市民の環境に対する意識は高まっていると思うので市民レベルでの「環境見守り隊」のような市民グループ組織の育成も必要ではないか。 自然共生社会と下水道／浄化槽普及が、市民の意識では直接結びつかない。もっと身近なテーマ「里山保全」「河川美化」「花や樹木あられる」「野鳥、昆虫、魚など生き物」を指標化してはどうか。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	B	A	C	A	B	
	概ね反映されている	反映されている	反映できていない	反映されている	概ね反映されている	
課題の捉え方 ：A～C	第2分科会の 評価結果	課題の捉え方に関する委員の判断理由・意見				
	B 課題の捉え方に 一部不足が見ら れる	<ul style="list-style-type: none"> 指標「アユが住めるレベルの河川敷」について、市民が理解できるのか。フナなどは比較的汚れた場所でも生息している。水質に偏りすぎていると感じる。 市民が出来ること、行政がやること、それぞれ両立して向上することが必要である。 ゴミ対策など持続可能な社会づくりの面からの課題も入れて良いのではないか。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	B	A	B	A	B	
	課題の捉え方に一部不足が見られる	課題の捉え方が 的確である	課題の捉え方に一部不足が見られる	課題の捉え方が 的確である	課題の捉え方に一部不足が見られる	
施策の方向性 ：A～D	第2分科会の 評価結果	施策の方向性に関する委員の判断理由・意見				
	B 継続実施	<ul style="list-style-type: none"> 地球規模の環境問題も含め、新たに取組の方向を検討する必要がある。 この施策は、市民の意識で成否が決まる。学習、見学会、自然学習会・見学会、行政の指導力、活動の評価システム、それぞれにおいて知恵と工夫が必要。 地球の自然を守っていくのは市民の義務であるので、もっと多くの事業展開を望む。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	A	B	B	B	A	
	拡大して実施	継続実施	継続実施	継続実施	拡大実施	

(1) 施策の外部評価の結果 【第3回】

基本政策	自然と調和した住みよいまちづくり
施策展開の方向	みんなの努力で環境にやさしいまちをつくる
施策	28：低炭素・循環型社会の構築
目標とする状態	<ul style="list-style-type: none"> ●市民・事業者の新生エネルギーや省エネルギーの導入意識が向上し、温室効果ガスの排出量の削減に向けた取組が進んでいます。 ●市民・事業者がごみの排出量の抑制に努め、更なる資源化に取り組み、限りある資源が有効に活用されています。

施策の達成状況 ：A～D	第2分科会の 評価結果	施策の達成状況に関する各委員の判断理由・意見				
	C 計画より遅れている	<ul style="list-style-type: none"> ・一般廃棄物の資源化率の向上が見られない。太陽光発電の普及も、電気の買取り価格が下がっていることから、今後の対策を考える必要がある。 ・ゴミ対策の取り組みの強化が必要である。 ・活動全般が一般的であり、新鮮味が感じられない。太陽光発電やリサイクルは着実に進めてほしい。 ・施策を構成する主な事業について、概ね計画通りに進捗され、成果が得られている。 ・持続可能な社会の実現のためには、ゴミの減量化・資源化は絶対に目標を達成しなければならない。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	C 計画より遅れている	C 計画より遅れている	C 計画より遅れている	B 計画とおりの成果が得られている	C 計画より遅れている	
計画事業の構成 に関する評価 ：a～c	第2分科会の 評価結果	事務事業の構成に関する委員の判断理由・意見				
	b 概ね妥当である	<ul style="list-style-type: none"> ・目標未達成事業を含め、市民や事業所へ啓蒙活動を進めることが必要である。 ・概ね妥当であると判断するが、目標の達成度を測る指標のうち太陽光発電の項目については、市内世帯の売電契約数に対して、行政の促進施策の有無が読み取れず、指標の妥当性に疑問が残る。 ・これらの事務事業を確実に遂行していけば、施策の目標は達成できるものと考えている。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	b 概ね妥当である	c 構成に問題がある	c 構成に問題がある	b 概ね妥当である	a 適切な構成である	
市民意識の反映 ：A～C	第2分科会の 評価結果	市民意識の反映に関する委員の判断理由・意見				
	B 概ね反映されている	<ul style="list-style-type: none"> ・国際状況や国内の産業等の動向を踏まえると重要度を上げるための啓発が重要である。 ・世代間で意識の格差があるので、市民への啓発事業と近い将来ゴミの有料化に向けた検討も必要である。 ・市民意識を高めるための行政の説明、PR、リーダーシップが十分ではないのではと思う。市民は具体的に何をすれば良いのか、何が出来るのか明確にし、市民と協力した取組が必要。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	B 概ね反映されている	B 概ね反映されている	C 反映できていない	A 反映されている	B 概ね反映されている	
課題の捉え方 ：A～C	第2分科会の 評価結果	課題の捉え方に関する委員の判断理由・意見				
	B 課題の捉え方に一部不足が見られる	<ul style="list-style-type: none"> ・2020年から具体的に動き出す「パリ協定」の対応を適宜実施すべきである。公用車へのハイブリッドカーの導入も進めるべきである。 ・一定の成果を得ているので、課題の捉え方が的確と思う。行政側がリーダーシップを示すべきと思う。 ・市がもっと強いリーダーシップを発揮してほしい分野である。やって当然の活動と、今後重点的に行う分野が不明瞭。ゴミの分別化、減量化は当然の活動と思う。 ・今後もこの施策を強力に推進してほしい。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	B 課題の捉え方に一部不足が見られる	B 課題の捉え方に一部不足が見られる	B 課題の捉え方に一部不足が見られる	A 課題の捉え方が的確である	A 課題の捉え方が的確である	
施策の方向性 ：A～D	第2分科会の 評価結果	施策の方向性に関する委員の判断理由・意見				
	A 拡大して実施	<ul style="list-style-type: none"> ・廃プラスチックの輸出が数年後に減少することを予想した、資源化を事前に進めるべきである。 ・ゴミの減量化・資源化など環境負荷の低減に向けた取り組みは、さらなる改善が期待されるところであり、拡大して実施の評価とした。 ・施策遂行の方向性は正しく、市民が圧倒的に支援を受けられる施策である。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	A 拡大実施	A 拡大実施	B 継続実施	A 拡大実施	A 拡大実施	